

BACTERIOLOGY OF CHRONIC OTITIS MEDIA WITH EFFUSION IN CHILDREN

Takahiko Nomura

Department of Otorhinolaryngology, Aichi Medical University

A study was conducted of 117 ears of children who had chronic otitis media with effusion.

Forty-three percent of the ears were found to contain bacteria and 17% contained bacteria that was "probable pathogens" after Riding et al (*Streptococcus pneumoniae* and *Haemophilus influenzae*).

Forty-nine percent of bacteria negative ears were found to contain leukocytes.

The significance of bacterial infection in the etiology of chronic otitis media with effusion in children was discussed.

小児慢性滲出性中耳炎の細菌学的検討

愛知医科大学耳鼻咽喉科学教室

野村隆彦

小児の滲出性中耳炎は、成人の滲出性中耳炎と異り、発生機序に急性中耳炎、ひいては細菌感染の関与が疑われるため、昭和58年1月から59年6月までの1年6ヶ月間に愛知医科大学耳鼻咽喉科において、15才以下の小児で、難聴のみを主訴とし、急性中耳炎症状の既応を欠くか、急性中耳炎の急性期症状消退後2ヶ月以上経過した例で、外来受診時に鼓膜切開をして中耳腔貯留液を認めた86耳と、6ヶ月以上中耳腔貯留液が消失せず、入院し全身麻酔下にチュービングを行った31耳、計117耳の慢性滲出性中耳炎中耳貯留液の細菌学的検討を行った。

表のごとく、117耳中50耳(43%)から計53株の細菌を検出し、菌培養陰性は67耳(57%)

表1 小児慢性滲出性中耳炎からの検出菌

検出菌	検出数	検出率
<i>Staphylococcus aureus</i>	5	4%
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	11	9%
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	5	4%
α -streptococcus	4	3%
<i>Corynebacterium</i> sp	2	
<i>Neisseria</i> sp	3	
<i>Haemophilus influenzae</i>	15	13%
<i>Haemophilus</i> sp	1	
<i>Pseudomonas cepacia</i>	1	
<i>Acinetobacter lwoffii</i>	1	
<i>Serratia marcescens</i>	1	
<i>Peptostreptococcus</i>	3	3%
<i>Propionibacterium acnes</i>	1	
No growth	67	57%
検索数	117耳	

%)であった。検出菌は *H. influenzae* が15株と最多で、次いで *S. epidermidis* 11株, *S. aureus*, *S. pneumoniae* 各5株, α -streptococcus 4株等の順であった。嫌気性菌は *Peptostreptococcus* 3株, *Propionibacterium* 1株の計4株を検出した。

検出菌中に Riding らが急性中耳炎の probable pathogen と分類した *H. influenzae*, *S. pneumoniae*, *S. pyogenes* のうち *H. influenzae* と *S. pneumoniae* が併せて20株(17%)認められる事実は、小児の滲出性中耳炎が、従来滲出性中耳炎の貯留液は無菌と考えられた概念と異なるものであり、細菌感染が成立に関与し、急性中耳炎と深い関連を有することを示唆するものと考ええる。

更に、菌培養陰性の67耳の中耳貯留液につ

いて好中球の検出を検討したところ、外来症例で49耳中28耳(58%),チュービング例で18耳中5耳(28%),併せて33耳(49%)に好中球が検出され、菌検出陰性例においても細菌感染による炎症反応が存在したであろうことを推定させる所見と考える。ただし、罹病期間の長いチュービング例で検出率が低下していることから、病像の長期化に関しては、細菌感染による炎症反応のみでは説明できず、細菌感染に次いで起こる他の因子の検討が必要である。

文 献

- 1) Riding, K. H. et al : Microbiology of recurrent and chronic otitis media with effusion. *J. Pediatr.*, 93 : 739-743, 1978.

質 疑 応 答

追加 茂木五郎 (大分医大)

- 1) 中耳貯留液からの細菌検出率の増加には菌検出技術の進歩が一因になっていると思われる。

追加 栗山一夫 (独協医大)

外耳道の消毒効果を過信するな、との発言であるが、70%エタノール単独ではそれも十分考えられるが、0.05%ヒビテン加70%エタノールでは消毒効果ははるかに向上する。